

# 緑のまきば

2013年 No.46

小金井緑町教会

小金井市緑町四一六一三三

☎042-381-7961

牧師 山畑 謙

説教

## 喜びに生きる

2013年度  
の聖句

「あなたを避けどころとする者は皆、喜び祝い  
とこしえに喜び歌います。」

御名を愛する者はあなたに守られあなたによって  
喜び誇ります。」 (詩編5・12)

山畑 謙

神を「避けどころ」とする時、神は「盾」となってわたしを守ってください。だから、苦しくとも、喜び祝い、喜び歌い、喜び誇ることができ。これが、この詩編五編の詩人の確信であり信仰です。

「避けどころ」という言葉を、上っ面だけで見るならば、この詩編詩人の信仰は、消極的な姿勢に見えるかもしれません。「避けどころ」は、言わなければ逃げ込む場所です。やはり信仰というものは、流行り言葉の、いわゆる「負け組」の人が逃げ込む世界

ということになるのでしょうか。

しかし、詩編詩人は、どうもそうではないようです。なぜなら、正義の神は、不義や不正を行う者らを、決して放置しておかれず、必ず神自らその者らを裁き滅ぼされる、という確信があるから。だから、神に守られ、かくまわれて、敵の攻撃をしのぎ、そして敵が滅ぶのを待つ。このスタンスは、自分が神の力によってスーパーマンのようになって、自分が勝利者(勝ち組)となる形で問題を解決したり、正義を実現しようとしなくて、神

のやり方、神の時にすべてをゆだねている信仰の姿なのです。神にゆだね、信頼するということは、実は極めて積極的(ポジティブ)な生き方なのです。

神はその者の「盾」となって下さる。「盾」は戦いの時、敵の攻撃から身を守る防具です。「盾」は飛んでくる弓矢や槍を受け、その陰にある人の身を守ります。そんな「盾」に神がなつてくださるといふ事は、よく考えるならば、驚くべきことです。普通ならば、神が超越的な力を發揮して、悪しき者らを成敗してくれるはずで

本来ならば、攻め(責め)裁くことのできる方が、守る側に立つ。この大逆転に「救い」があります。その極みにあるのが十字架です。イエス・キリストは、その身に鞭と釘と槍を受け、まさしく体をはって「盾」となって下さる。十字架の出来事は、本来ならば、私どもに突き刺さるべき矢や槍を、イエス・キリストが身代わりになつて受けて、私たちを守る「盾」となつてくださった出来事でありました。この十字架の守り、赦しを信ずる者に、復活の命が与えられると約束されています。それこそ、私たちが完全に守り抜かれる存在とされること

に他なりません。

私たちは、自分の罪に、人の罪にただ打ち伏されるばかりです。しかしその苦しみの淵の底に、復活し、今も生けるキリストが来てくださり、釘跡のついた手をさしのべて言われま

す。十字架をもってあなたの盾となり、あなたを守るわたしを信ずる者となれ、と。

この出会いは人が操作して持ったりと与えたりできるものではありません。ただ恩恵として、一方的に与えられます。しかし、その出会いを、現実的な問題に苦悩しながらも、なお願う求めていく時、必ず与えられるでしょう。その時、この方に身をゆだねていこう、この方に自分の不信仰さも含めてすべてをお任せしていこうと、心底思えるようになるでしょう。

苦しいことは苦しいし、試練は試練だ。しかし、この自分をとことん守る方、命をかけて、そして命を与えるまでに守り抜いてくださる方がいるのだから、私は大丈夫だ、と言える。

なんと有り難いことか。そしてなんと不思議な安らぎであろうか。喜び祝い、喜び歌い、喜び誇る、そのような静かだが、しかし確かな新しい一歩がまた踏み出されていく。それが喜びに生きる姿ではないか。